中国がわかるシリーズ 23　貞観の治 （下）

ライフネット生命株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口　治明氏）

636 年、太宗は、府兵制を再構築しましたが、軍府は、長安や洛陽一帯に集中されました。637 年に貞観律令を公布し、律令体制をほぼ完成させた太宗は、640 年に、高昌国（トルファン）を滅ぼし、西域経営の拠点として安西都護府（辺境に置かれた六都護府の一つ）を置きました。安西都護府は 658 年には亀茲に移され 790 年まで存続しましたが、シルクロードの交易の発展に大きく寄与しました。しかし、太宗も高句麗への遠征（644～648）には手を焼きました。ついに高句麗を屈服させることは出来なかったのです。唐軍が、高句麗で苦戦していた頃、東南アジアでは、扶南の属国であった真臘が独立し、逆に扶南を併合しました。645 年には、倭国で政変が生じ、権力の座に就いていた蘇我氏本宗家が滅びました（乙巳の変。大化の改新とも呼ばれています）。しかし、天皇家に独占的に后を供給する名族、蘇我氏は、まだしばらく余命を保つことになります。

649 年、太宗は死去して、昭陵に葬られましたが、溺愛した王羲之の蘭亭序を副葬させたと伝えられています。書を愛した太宗の下で、名筆も続出しました。楷書は、初唐にほぼ完成されましたが、欧陽詢、虞世南、褚遂良 3 大家の貢献が大きいと言われています。また孔穎達は、太宗の命を受け、五経正義を著しました。儒教の、いわば国定教科書です（科挙の基準となりました）。この他、太宗は、史館を設け、隋書のみならず欠落していた魏晋南北朝の正史を勅命で編纂させました。魏晋南北朝以来、紙の普及により膨大な文献が蓄積されていましたので、正史の編修はもはや分業に拠らなければ不可能でした。家学に殉じた司馬遷や班固の時代は過ぎ去ったのです。鮮卑の拓跋部の流れを汲む唐をいかに歴史の中に位置付けるか、そこに太宗の主たる関心がありました。太宗は、遠い祖先が中国に現れた民族大移動の時代、即ち、晋書を重視しました（しかし、5 胡 16 国を、晋書の付録のように扱ったことで、歴史を歪めた、とも批判されています）。こうして、太宗の時代、歴史は独立した学問の分野として認知されるようになったのです。史学概論とも言うべき劉知幾の「史通」（710）は、歴史という学問が独立したことの偉大な記念碑です。儒家はひたすら上古を崇めましたが、史学の独立は、近現代の尊重、即ち進歩史観に道を開くものとなりました。また、太宗は、西域の音楽を伝統音楽と共に集大成し、十部楽を定めました。楽器の数は 300 種を超え、管楽器、弦楽器、打楽器がすべて揃っていたといわれています。なお、わが国に伝えられた雅楽は、胡俗楽で、西域の音楽に他なりません。
ところで、後世、太宗と煬帝は名君と暴君の代名詞となりましたが、2 人の事跡を冷静に比べてみ

Copyright ⓒI-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
発行人：岡本和久、発行：I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
URL: http://www.i-owa.com；E-mail: info@i-owa.com

ると、それほど大きな差は見られません。太宗が名君であったことは確かですが、先行した隋の文帝と煬帝も能力的には傑出しており、いずれも唐の基盤を固めた優れた皇帝であったように思われるのです。太宗には、簒奪者の負い目があり、それが、必要以上に太宗を名君に仕立て上げ、また、易姓革命思想によって煬帝を暴君に粉飾したのでしょう（太宗ほど、自らの事跡を脚色した皇帝はいない、とも云われています）。

Copyright ⓒI-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社